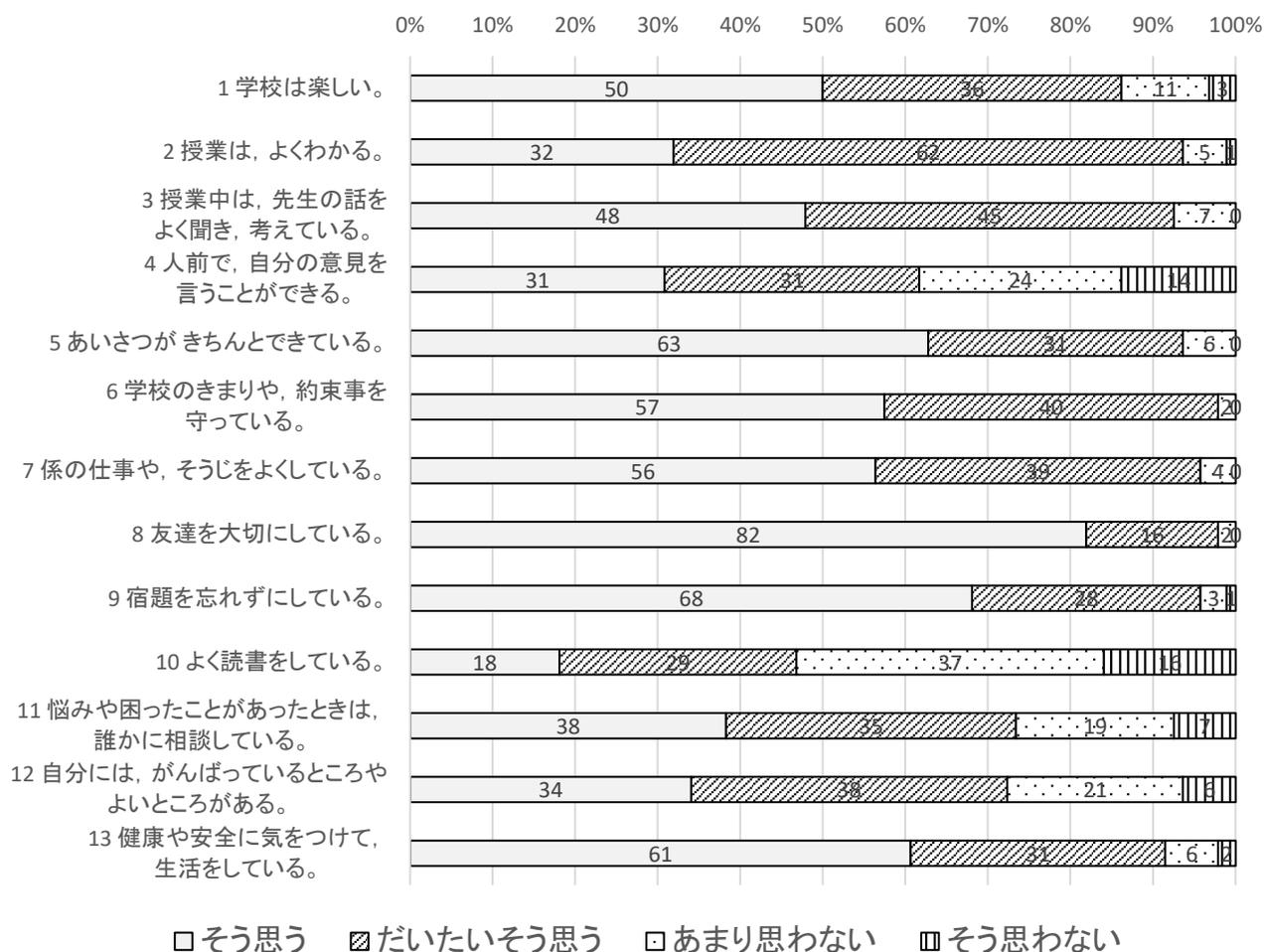


児童アンケート結果



〈考察〉

○全体的に肯定的な評価(80%以上)が9項目、課題(80%以下)が4項目ある。

○「楽しく学校に通う」「学校のきまりや約束事を守っている」「仲間と楽しく安全に過ごす」ことができる児童が多い。否定的な声にも耳を傾け、それぞれの取組の改善、強化を図る。

○「あいさつがきちんとできている」「係の仕事やそうじをよくしている」と答えた児童が多い。PBSの取組である「芝生つきらきらプロジェクト」での意識付けを更に高めていきたい

○「授業がよくわかる」「先生の話をよく聞き、考えている」ことができる児童が多い。ICTの効果的な活用等、先生方の授業改善によって子どもたちが興味・感心を持って、根気よく学習に取り組むことができる。一方、質問4(62%)については、今後も一人一人が表現できる機会(ペア学習・グループ討議・タブレットを使つての意見の交流等)を意図的に確保するなど、学習の展開を工夫していく。

○質問10(47%)について、様々な読書活動推進の取組によって、読書をよくする児童もいる一方で、あまりしない児童も一定数いる。授業と関連づけた図書室利用、読み聞かせ、多読賞表彰、ポップづくり、移動図書館の利用促進、学校図書館サポーターとの連携等の取組を改善、強化していく。

○質問11(73%)について、教育相談の充実、あたたかい人間関係づくり、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用等を今後も充実させる。

○質問12(72%)については、ポジティブな行動支援の取組をさらに充実させ自己肯定感を高める。